株式会社果実堂

熊本県上益城郡益城町

はばたく中小企業・小規模事業者300社

生産性向上　需要獲得　担い手確保

ものづくり　サービス

サイエンス農業で農業界にイノベーション 夢を果実のように実らせるベンチャー企業

三井物産株式会社、カゴメ株式会社、トヨタ自動車株式会社が出資する農業ベンチャー企業で、「健康のある場所。果実堂」を経営理念に、年間600トンを生産する国内最大のベビーリーフ（野菜の幼葉の総称）メーカーである。全ての栽培工程をデータ化しITを駆使したサイエンス農業で安定的な生産体制を構築している。また、現在はベビーリーフ事業を基礎に農業コンサルティング事業やサラダ用発芽大豆（大豆スプラウト）の製造・販売事業も展開している。

- 所在地　熊本県上益城郡益城町田原1155−5 熊本テクノリサーチパーク
- 電話／FAX　096−289−8883／096−289−8839
- URL　https://www.kajitsudo.com/
- 代表者　代表取締役社長　井出 剛
- 設立　2005年
- 資本金　10,000万円
- 従業員数　160人

生産性向上

ものづくり

市場ニーズに応える有機ベビーリーフの高品質で安定的な供給体制

半環境制御型の低コスト耐候性ハウス「高瀬式14回転高機能ハウス」を研究開発し、ベビーリーフの年間14毛作を実現する一方、熊本地震を教訓に産地の一極集中を見直し、三重県松阪市に進出（うれしの農園㈱）した。三重県に農場を構えることで近畿・中部地方への供給を拡大している。有機栽培による食の安全への取組み、高機能ハウスによる収量増、農場の拡大と異常気象に対するリスク分散、物流費の抑制等で市場のニーズに応じた商品を提供し続けている。

高瀬式14回転高機能ハウス

農業分野へのトヨタ生産方式の導入（二次産業農業）

トヨタ自動車㈱との資本提携を機に研修会を開催し、「トヨタ生産方式」の原点と思想を積極的に吸収。作業工程の見直し、導線の変更、資材の見直し等の原価低減・効率化を進め、生産性の高い体制の構築を進めている。また、ベビーリーフパッキング工場では、ニンベンの付く自働化・機械化を進め、ベビーリーフ原体の自動搬送機の開発や、これまで手作業で行っていたミックス工程の機械化に成功し、省人化を果たした。

ベビーリーフパッキング工場

農業コンサルティング、加工食品等の多角的な事業展開

これまで自社ベビーリーフ研究所に蓄積された栽培技術を活かし、農業コンサルティング事業を展開。東大発ベンチャーSenSprout社の土壌水分センサーを用いた自動灌水システムの開発や大学・研究機関との共同研究を通じて、農業発展への貢献を目指す。また、自社特許技術「落合式ハイプレッシャー法」で発芽させた大豆は、旨み成分のグルタミン酸やイソフラボン、GABA、アラニンの含有量を飛躍的に高めたオンリーワン商品で、サラダ用の発芽大豆の他、豆腐・豆乳の加工食品としても拡販を進めている。

ベビーリーフ研究所